

## 「近江学B / 地域を知ることの大切さを学ぶ おうみ学生未来塾湖西」を実施しました

---

### 科目概要

成安造形大学が位置する近江(滋賀県)は中央に位置する琵琶湖とそれを囲むように連なる美しい山々という恵まれた自然環境を有するフィールドです。それだけでなく、古代から文化が形成されてきたために、多くの文化遺産を保有し、その伝統を今に伝えています。

この科目は、本学近くにある大津市の中心市街地をフィールドワークしながら、地域の人々との交流の中で、地域文化を体感します。そのうえで、歴史的資源を活かした持続可能な活性化の取り組みをグループで考えます。このように、伝統的な風習を残す地域を積極的に検証することで、21世紀に息づく普遍的な価値観を身につけ、自らの作品制作や未来の生活に活かすことを目的とします。

最終日には大津市中心市街地が抱える問題点を整理し、未来のあるべき姿を提案、発表しました。

### 到達目標

- ・先人の知恵をたどり、今に伝えられる大切な事象を捉えて今に活かすことができる
- ・どこの地域においても活かすことのできる普遍的な価値観を身につけることができる
- ・フィールドワークを通じて地域の暮らしやコミュニティのあり方について考えることができる
- ・グループワーク・ディスカッションを通じてまとめる力や発表する力を身につけることができる
- ・持続可能な地域の活性化について議論して提案することができる

近江学 B/地域を知ることの大切さを学ぶ おうみ学生未来塾湖西

日 時:2018年8月28日(火)13:20-14:50、29日(水)9:00-16:00、30日(木)9:30-16:30、31日(金)9:10-16:30

場 所:成安造形大学本館棟021教室 他

講 師:成安造形大学芸術学部准教授 加藤賢治、客員教授 仁連孝昭

受講生:28名(成安造形大学学生:25名 立命館大学学生3名)

以下

授業報告・文責:加藤賢治

8月28日(火)

ガイダンス フィールドワークの概要と目的 グループ分け

以下の通り地域学の魅力について解説。その後、3日間のスケジュールを説明して4つのグループに分け、自己紹介等の話し合いを行った。

「地域学の魅力」

1. 近年一般的に解釈されている地域学

地元学、地域活性化に繋がる取り組み、生涯学習の一環として歴史文化を学ぶ

2. 本来の地域学とは

人文科学（考古学・歴史学・文学・文化人類学・民俗学）

社会科学（環境学・地政学・地理学）

自然科学（生態学・地学・地質学）

学際的視座とフィールドワークなどによる主体的視座によって総合的に地域を研究する学問

＝学問領域を横断して広い視野をもち、様々な可能性を探る

成安造形大学が提唱する地域学 → 近江学

一つの小さな範囲を調査する→そこにしかないもの、他にも共通して見えるもの

両方が存在する 地域の問題点は全世界の問題点

8月29日(水) フィールドワーク大津中心市街地①「三井寺・ながらの座・座他」

午前中は、総本山三井寺山内を見学。山門(重文)、釈迦堂(重文)、光浄院客殿(国宝)、金堂(国宝)、閼伽井屋(重文)、弁慶の引きずり鐘、一切経蔵(重文)、唐院、文化財収蔵庫、観音堂(重文)を見学し、貴重な文化財に触れながら、数々の伝説や三井寺主宰の夏のイベントを紹介し、その役割や、巡礼などの近世の信仰のあり方などを考え、三井寺が保有する貴重な歴史文化資源をインプットした。



三井寺にて昼食の後は、三尾神社、琵琶湖疏水、長等神社を見学。「ながらの座・座(元正蔵坊 橋本家住宅)」を訪ね、「ながらの座・座」を主宰する橋本敏子氏から、歴史文化資源を元にした文化活動の現場を紹介いただき、活動の意義や、難しさなどを学び、グループごとに1日の感想をまとめた。



8月30日(木) フィールドワーク大津中心市街地②「大津百町館・大津祭曳山展示館・藤屋内匠(和菓子)・大津別院・天孫神社他」

はじめに幻の城大津城跡を訪ね、歴史を大きく動かした大津城の知られざる活躍を知った。続いて大津百町館では、港町、宿場町、門前町という3つの顔を持って近世に発展した大津中心市街地の歴史を学び、館内の町家を見学して町衆の暮らしを学んだ。次に曳山展示館を訪れ、毎年10月に開催される大津祭の解説を受け、当時の町衆の活躍ぶりや、年に一度のハレの日の雰囲気味わった。また、中心市街地の活性化の取り組みを続ける白井勝好氏から、これまでの活動とその問題点などについて話を伺った。続いて、創業300年という和菓子の老舗「藤屋内匠」を訪問。大津祭の特等席である2階から、大津の旧市街地を眺め、当家の遠藤仁兵衛氏から、町衆の心意気や和菓子づくりを基本とした持続可能な経営についてお話を伺った。

昼食後、東海道の宿場景観を守る活動を垣間見て、浄土真宗大谷派の大津別院を訪ね、普段は見ることができない、豪華絢爛な書院を見学。宗派の門主や皇室、武家などの要人が休憩、接見する場所として宿場になくてはならない重要性を学んだ。天孫神社では、宮司さんから氏子と氏神の関係や、氏子に支えられた地域の良さ、活性化の本来は、氏子たちの笑顔が不可欠であることなど、地域の賑わいを考える中で貴重な話を聞くことができた。最後に環びわ湖大学地域コンソーシアムの教室に入って、1日のまとめをグループごとに行った。



8月31日（金） グループディスカッションと発表

最終日は、成安造形大学本館棟021教室にて、グループディスカッションを行い、最後にグループごとの発表とした。

各グループで、班長、カメラ撮影、プレゼン資料まとめ、企画推進などの役割のもとに、ディスカッション重ね、最終的に「歴史文化資源を活かした大津中心市街地における持続可能な地域活性化の提案」を目的として、地域の課題を抽出し、活性化のプランをまとめ、発表した。

1班「三井寺 光の絵巻物 11の伝承」

2班「三井寺 百鬼夜行 妖怪たちの宴」

3班「大津百町ミステリーツアー」

4班「大津絵 灯籠流し」



学生たちのまとめレポートを読むと、この授業を通して、

- ・ この大津中心市街地だけでなく、あらゆる地域に歴史文化資源は必ずある。それらをどう活かすのか。自分たちの出身地域や、これから社会に出て活躍する地域で、それらを発見し活かすことの重要性
- ・ 真の意味における活性化とは何か。そこに暮らす人々の生きがいにつながるような取り組みを提案しなければならない。
- ・ 地域で活動する様々な立場の人々の意見を聞く必要がある。また、活性化という目的を共にする人々との意見交換が必要である。
- ・ 地域において新しい取り組みを考えるには、まずその地域でおこっている現状の課題を正確に捉え、それらを考慮して進める必要がある。

など、様々な学びを得たことが理解できた。フィールドに出て、様々な立場の人たちの話を聞き、多くの気づきのもとに、新たな取り組みを考える大切さを学んでくれたのではないかと思います。